



今年、長野県は七年に一度の御柱祭で話題になりましたが、あまり注目されない八年に一度のキシヤヤスデの群遊が見られる年でもありました。キシヤヤスデは無数に群れて出現するため不快害虫とされることがありますが、落ち葉を食べて分解し土中を動き回することで、土壌を豊かにする大事な役割を果たしています。

このキシヤヤスデに紫外線ライトを当てるとペトリン-6-カルボン酸という化学物質により青く光ることが知られています。背面より腹面の方が強く光り、キシヤヤスデが交接で相向かいになると更に輝きが増します。暗闇で紫外線ライトを地面に当てると、地上に星が現れた感じを受けました。

JAN 2017

薪づくり体験会

「森の恵み会に参加して」連載中

チャットワークの利用について

■ ■ ■ 目からウロコの薪割りなどなど

何事も自己流でこなしてきた我が身を振り返り、おっと驚く新事実が続出の、今回の「薪づくりのすべて」のプログラムの内容でした。

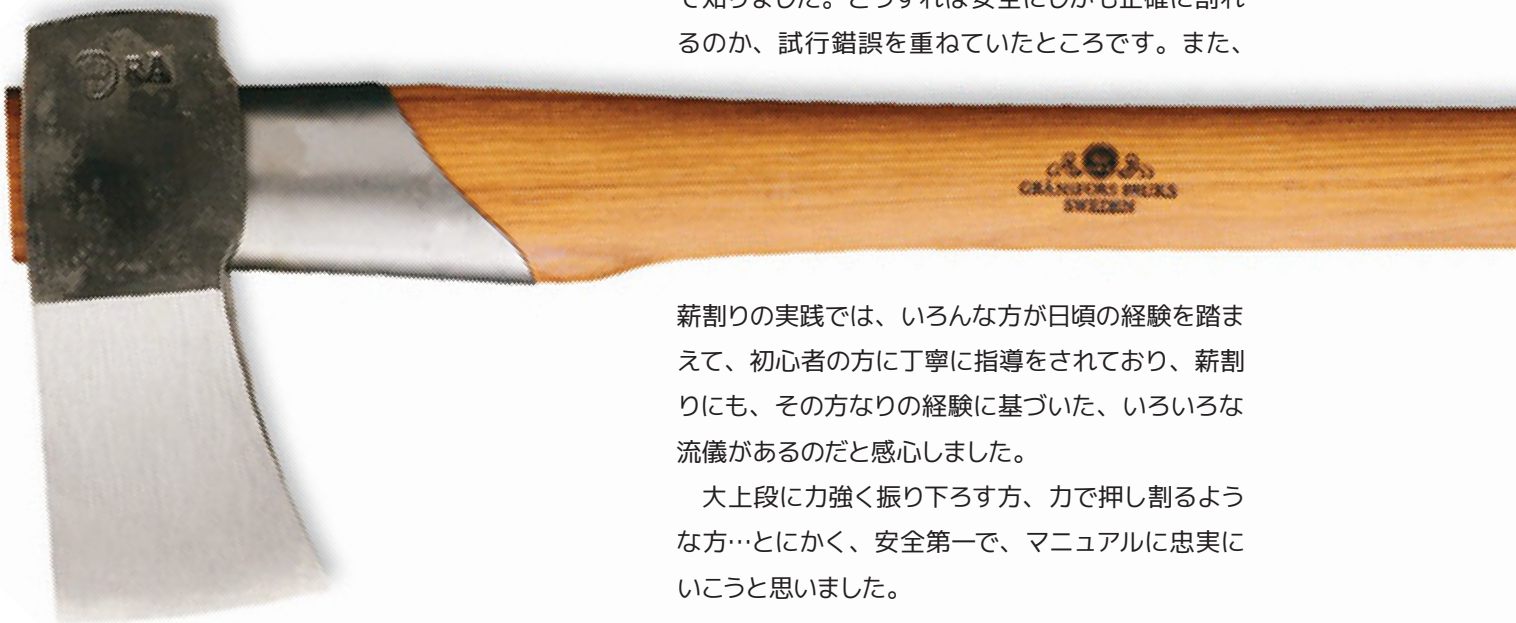
その1 そうだったのか！薪づくりの基本

海ノ口自然郷に山荘を建てて 5 年。昨年 4 月からは、1,650m の山荘暮らし中心の生活が始まりました。この間、敷地内のカラマツ、コナシなどの樹木（直径 20cm から 30cm）は、ひとり木こりで 20 本以上を伐採してきたのですが、今回、ミズナラの伐採・玉切り作業を学び、いかに危険で自己流であったのかを実感することに…。



そういえば、30cm の玉切りしたカラマツの薪割りは、10 回以上斧を入れてもなかなか割れないこともあったなあ！これも、最近知ったことで、大きい玉切りを割るときは、円周の端から斧を入れていくといいとか。まだ実践していませんが…。

薪割りの姿勢も、「斧の重さを生かして腰を落として打ち下ろすイメージで」というのも、初めて知りました。どうすれば安全にしかも正確に割れるのか、試行錯誤を重ねていたところです。また、



薪割りの実践では、いろんな方が日頃の経験を踏まえて、初心者の方に丁寧に指導をされており、薪割りにも、その方なりの経験に基づいた、いろいろな流儀があるのだと感心しました。

大上段に力強く振り下ろす方、力で押し割るような方…とにかく、安全第一で、マニュアルに忠実にいこうと思いました。

「特に危ないのは、かかり木」だそうで、これは今まで 2 回も経験し、一人でロープを引っ張りやっとう倒しました。チェーンソーを使う際は、「保護めがね・耳栓・ヘルメット・チャップスを必ず装着」することと言われたが、耳栓・チャップスは持っていないし、保護めがねはしないことも。

さらに、「薪割りは、玉切りからせいぜい 1、2 週間のうち。切ってから時間が経つと切り口だけが乾いて固くなり、斧が跳ね返されるから」と教わりました。これは、最近他の人からも聞いて、えっと驚いたことです。それまでは、玉切り後、何ヶ月も乾燥させた方が割りやすいと思い込んでいました。

さらに、ストーブ使用上でも新たな知識が！薪の乾燥は、含水率 15% 以下が目標。さらに、含水率計を使うと良いということで、購入を検討しています。日本の豊かな森林資源を守り、有効に使う。





お忙しい中、大変ご苦勞をされていると思います。また、「この樹木は、何でしょうか」「庭に新しい樹木を植えたいのですが」「この足跡は何?」「野鳥の生態、行動についての疑問」などなどの質問にも丁寧に答えていただいたことに改めて感謝です。

チャットグループなど、ネットワークづくりもすみ、ますます楽しくなりそうな「森の恵み会」! 会員になって本当によかったと思います。会に参加した動機は、「演習林を通じ、八ヶ岳の自然を知り、いろいろ体験したい」「自然を大切に活動をしたい」同時に、「定年後、少しでも社会的に貢献できないか」という思いから。ボランティアとしての活動にも積極的に関わられるよう、自主的に活動できるようにしていきたいものです。(大淵 功)

薪割りイベント参加レポート

今回参加してみて、本当に多くの方が薪に関する事に興味あるんだな〜と感心しました。みなさんは生活スタイルの中で必須に追われて薪を確保する為に参加したのだと思います。しかし、私は薪ストーブをやっていません。知り合いが薪ストーブをやっています。それを手伝わされているうちに、次第に『チェーンソーオタク』になっていきました。



最初は農機具屋さんから処分する工具を譲っていただいて、それを修理して復活させるのに快感を覚えました。現在チェーンソーは5台所有していますが、一度も新品を所有した事はありません。あまり農機具屋さんの営業妨害になるので大きい声では言えませんが、結構、ちょっとした不具合でみなさん廃棄してしまうのですね? ほんの少しの分解清掃だけで問題無く、新品同様の工具や機械がほとんどです。私の様な貧乏人にはうれしい限りです。

それでもやはりカットしてみると、刃の研ぎ方・使用方法などに奥が深い事に気付いたり、伐倒から枝払い・玉切り・薪割り経験と経験を積んで来ました。ですから、私の様に機械がいじるのが好きな方ばかりでは無いと思いますが、工具も普段のメンテナンスなどの講習や座談会までは出来なかったので今後はそのような機会もあるとうれしいですね。

幸い現在まで大きな事故・ケガはありませんが、ちょっとした不注意から取返しの無い事故やけがが発生しかねません。今回も多くの方から勉強させられました。今後の教訓にしてこれからも精進したいと思います。

今回のイベントではプロの方から素人まで総勢30人近くが参加でした。これだけの人数がいると



刃物系扱うので、すごく作業周りが気になります。せめて危険性のある作業では10人ほどの少人数でグループになってやるべきです。その理由も踏まえて最終的には場所も大きく利用確保して、グループ



ごとに分かれて作業が出来ていたと思います。やはり、人生経験を踏んできた方達だけに活動がしやすいですね。私は中学高校の非常勤講師を経験してきた関係上、こんなにスムーズな授業はなかなかありませんでしたから…。

野外活動棟にて薪ストーブの実演もありましたが、ストーブひとつ取っても奥が深いですね～。値段もピンきりでしょうが、生活の中で長く付き合う、重要な道具でしょうから、より多くの情報を吸収し、決めなければなりません。火を上手に扱えれば素晴らしいライフワークが拓かれますね。私も早く資金と時間に余裕が出来て、薪ストーブのある生活をしてみたいな～と改めて思いました。



今回のイベントの中でも楽しみだったのが昼食のひと時…。アウトドアなイベントとしてはメニューが素晴らしい物でした。これだけの物を用意して下さったメンバーの方、お疲れ様でした。非常においしかったです。やはり、『腹が減っては作業は出来ぬ』ですかね。まあ好き勝手な感想を述べましたが、なかなか大学という環境で難しい点もあると思います。失礼しました

藤岡先生並びにスタッフの方、参加メンバーの皆様、本当にお疲れ様でした。(成沢健二)





次回のイベント予定

次回のイベントは2月26日、森の恵み会1年目の最後のイベントとして、アニマルトレッキング（動物の痕跡観察）を企画しました。雪のおかげで動物の足跡や食べ痕、糞が簡単に見つかります。雪の森を歩いて痕跡の主を探りましょう。

主に歩く場所は、今のところハヶ岳演習林を予定しています。ただし、雪の状況などによっては、恵みの森か川上演習林に変更するかもしれません。雪が深い場合は、スノーシューの体験会もやりましょう。一昔前まで国内でよく使われていた輪かんじき（ワカン）に比べると（急傾斜地を除いて）歩きやすいですし、着脱も簡単です。ワカンを含めてご自分で持っている方は用意してきてください。厳冬期の野辺山ですので防寒対策を怠りなく。アイゼンが必要になるようなところには行きません。

お昼には登山用のバーナーやバイオライトでお湯を沸かしてカップスープを提供します。お弁当などは冷たすぎて食べられないという方はカップラーメン等をご持参ください。

開催日時：2月26日（日）午前10：10開始、10時前より受付。終了は午後4時頃の予定。（東京から電車なら長野新幹線利用で間に合います。中央線では不可。）

集合場所：筑波大学ハヶ岳・川上演習林管理棟（恵みの森構内）

服装：厳冬期に野外活動ができる服装で。上質の手袋も必須です。

持ち物：昼食・飲み物（ポットお勧め）・雨具・カイロなど。ある人はスノーシューまたは輪かんじき、ストックなど。

事前連絡：準備の都合上、参加される方は極力事前にご連絡願います。当日までわからない人もその旨をお知らせください。

その他：小雨・小雪決行です。中止の際はホームページで知らせます。車の方は、くれぐれも冬用タイヤでお越しください

来年度の予定は未定ですが、今年度のイベントを踏襲しつつ、反省点を踏まえて日程や中身を検討します。最初のイベントは総会を兼ねて5月になるで

しょう。4月中旬にはアナウンスするようにします。イベントの提案や希望も大歓迎です。事務局までお気軽にどうぞ。



チャットワークの利用について

会員相互の交流用にチャットワーク（ChatWork）という無料版グループチャットの運営を始めました。森の恵み会ではメールアドレスや電話番号といった個人情報は会員にも公開していません。チャットワークを使えば、会員同士はこれらを知らなくても交流できます。

チャットとは、インターネットを介した短文のやり取りです。グループチャットでは、決まったメンバーとの間でチャットします。打ち合わせや会議（あるいは井戸端会議）の会話を文字に、紙資料（広告チラシ?）を電子ファイルに置き換えたものとイメージしてください。似たことはLINEでもできますが、LINEはプライベート用、チャットワークはビジネス用に設計されているので、いろいろ違いがあります。上手に使い分けましょう。

チャットワークで親しくなってから、あるいは会のイベントで会ってから、会員同士で電話番号やメールアドレスを交換したり、LINEの友だち登録をするのはなんら問題ありません。チャットワークでも1対1のチャットができるので、森の恵み会関係はチャットワークだけで済ませるというのもアリです。特に学生会員にお勧めします。

チャットワークはパソコンやスマートフォンから使えます。詳細は森の恵み会WEBページの「会員向け情報/このページの目次」からお進みください。



ノベヤマネス !!

細山祐輔 神奈川県相模原市在住（別宅：野辺山）

チームのメンバーに「今日も野辺山ですか?」と言われて「そうそう。お先～」と言って会社を出る金曜の夜。自動車エンジニア達は週末前も遅くまで働くモノなのだが、今日はサクリと抜けさせて貰って冬の夜道を一路、野辺山へ向かうのだ。

冬の時期に東京方面からやって来ると、暖かい甲府から大泉で 6、7 度下がり、清里で更に 2、3 度冷えて来る。不思議な事に、そこから 5km 程度の野辺山に着いた頃にはさらに 2、3 度下がるだけでなく、空気や路面の凍結や積雪の状態が変わってくる。清里や大泉と違って南北にあまり傾斜がなく、風が吹き抜けるからだろうか。

ハンドルを握って 3 時間半。夜の深まった頃に野辺山の隠れ家へ到着してドアを開けた時の静寂が、仕事の疲れで萎んでしまっていたココロを一気に膨らませてくれる、ワクワクする瞬間だ。我が隠れ家はその野辺山の少し高い辺りの森に隣接する古い別荘地に位置することもあり、晴れた梅雨の時期にはエゾハルゼミが大合唱の耐久レースを繰り広げ、高原野菜が大地を埋め尽くし始める。

蚊も少なくエアコンの要らない夏の頃には、多くの名前も分からぬ花が咲き乱れる。短い夏が終わって秋になると、庭に仕掛けたフィールドカメラにキツネが映り始める。広葉樹は美しく紅葉し、それらが散りきったあとには落葉したカラマツの松葉が道路の左右をオレンジに縁取る。宵闇の中、フクロウの鳴き声が聞こえて夜の空気はキーンと乾いて来ると、長い冬の始まりだ。一日の最高気温が氷点下と言う日が続く冬になると、積雪の残る庭にはシカやキツネの足跡が残っている。朝になると、すっかり虫のいなくなった庭に食を求めて色々な「カラ」がやって来る。コガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ。



時には真冬に何時間も薪を焚き、ドラム缶風呂を嗜む事もある。外気温 -15°C 、水温 40°C 。キンキンに冷えた井戸水は大体 150 リットル。薪が良い仕事をしてくれているとしっかり暖を取る事が出来るのだが、ドラム缶に入る時と出る時には一度激寒の空気の中で全裸になる為、温度耐久試験の様な辛さを感じる事もある。しかし、これもまた快感なのだ。



神奈川からわずか 150km、高速道路を使えば 2 時間で行ける所にあつて、冬になると日本中で最も低い気温を観測する日もあり、気の利いたお店も他地域の客を呼び込める温泉施設も無いが、ホッカイドウネスを持った小さな地域が野辺山だ。この地域の特殊な雰囲気魅せられ、隠れ家を持ってから 6 年。趣味のランニングでこの地域をくるくる回っていると、木の種類や花の名前、通りすがりに見かける動物やフィールドカメラに収まった奴らとその行動が気になって仕方がない。エンジニアの性だろうか。

そのワンダーランド、野辺山のセントラルからほんの少しだけオフセットした所に、豊かな自然と森の動物達の営みを優しく見守る筑波大学八旗・森の恵み会ヘッドクォーターがある。森林調査や自然情報の布教担当のボランティア集団に加えて頂いた事で、ストロブ松の樹齢の数え方、この辺りに出没する動物達や人々の種類や傾向、一大宗教である薪ストーブ教の存在（＝非常に趣味嗜好の要素が強い物体である、という意味）等々、活動に参加する毎に少しずつ「ノベヤマネス」の秘密や生きとし生けるモノ達についての新たな知識を貰っている。

一回目のリレーコラム担当と言う事もあって野辺山愛や森の恵み会参加の動機を書いてみたのだが、年間 4～5 回の発行だとすると、次の担当は 10 年後くらいだ、と言う事に気がついた。もっと楽しげなコトを書けば良かったかなあ。うむむ。





森の豆知識（フクロウ）

今回は森の哲学者とも呼ばれるように知的なイメージのあるフクロウを取り上げましょう。私は自分でフクロウを研究したことはありませんが、いろんな話を研究仲間から聞きます。最近一番印象に残っているのは、津軽地方のりんご園にフクロウがたくさん営巣しているという話です。りんご園では下草が刈られていてフクロウがハタネズミを捕りやすい上、りんごの木には樹洞ができやすくて巣場所にも困りません。この話はその後TV番組になりました。

フクロウは、林床がササに覆われている森林にはあまりいません。ネズミ類を狩るのが難しいからです。一昔前ですが、つくば市内の林でササを全面的に刈り取って実際にフクロウがやってくることを証明した知人がいました。ちなみに、ネズミの方はササがある方が多いことが知られています。フクロウは、闇夜でも音だけで獲物の位置を把握して襲うことができます。逆

に、獲物に気づかれないように自分の音は消しています。羽毛の周辺部に細かい毛があって、音をたてずに飛べるのです。フクロウ類はタカ類と並ぶ捕食者で、まとめて猛禽類と呼ばれます。系統的にはだいぶ違いますし、何より夜行性という大きな特徴がありますが、他にも足が前後に2本ずつだったり、餌を丸呑みするといった違いがあります（いずれも例外あり）。フクロウ類は消化できない毛や大きな骨はペリットという固まり状にして吐き出します。ペリットを調べれば獲物を知ることができます。

野辺山では冬になると朝夕の明るい時にも狩りが見られるということで、フクロウ目当ての観光客も来られるそうです。野辺山には、もともと日中にもよく狩りをする別のフクロウ類もいます。コミミズクです。こちらは冬鳥で、河川敷や牧草地で主にハタネズミを捕ります。待ち伏せだけでなく、低空を飛んでネズミを探すこともあるので、フクロウよりも見つけやすいかもしれません。（藤岡）



ハケ岳 ちょっと寄り道

説明するまでもないですね、清里「萌木の村」の原点、みんなのレストラン ROCK。昨年8月の火災で全焼してしまいましたが、すぐに仮設店舗での仮営業を開始。12月からは冬季休業中の清里ピクニックバス2台の支援を受け、古き良き時代の食堂車のような雰囲気の中で食事することができるようになりました。向かいのホテルレストラン・ネストでもROCKのカレーを提供しています。毎年2月のお楽しみ「寒いほどお得フェア」にももちろん参加（プレ開催は1月15日から）。基本的にはネストで、ネストが休業の日はピクニックバス仮設店舗で適用されるそうです。頑張れROCK！（森下）



ブルーバブレストラン ROCK

山梨県北杜市高根町清里 3545 萌木の村 Tel.0551-48-2521
仮設店舗営業時間 10:00-16:00（ラストオーダー 15:45）

■ 次号の発行予定

次号は2016年度の最後の会報になります。3月中旬に発行予定です。

会員からの投稿も歓迎します。事務局または藤岡まで原稿や写真などをお送りください。メール添付でも郵送でもけっこうです（郵送の場合、写真などは原則として返却しませんのでご了承ください）。

■ 編集後記

冬到来。早くスキーやスノートレッキングに飛び出したいところですが、入念な準備運動をお忘れなく。

■ 表紙の写真と文

キシャヤステと紫外線ライトを当てたキシャヤステの交写写真。（アルプスハイランド別荘地：杉山昌典）

